

学校再編に関する諸課題

－意見聴取会で出た意見の紹介－

○まちづくり

【跡地利用・地域文化】

(まちづくり)

- ・反対している人は「地域の灯が消えること」に反対している。賛成している人は「子ども達の教育を良くしたい」というところで賛成をしている。まちづくりの一環としての学校再編でないと非常に厳しいなということを経験、説明会に行って感じた。
- ・学校が無くなったら地域が寂れていくというのはどうしようもない。そうしたことを踏まえて「市としてのまちづくりをどうしていくか」というビジョンを立てて進めていくことが大事かなと思う。
- ・小学校の再編のことで方針を見ていると、確かなものは出ていないので、同級生の子も阿南市に流れていった。施設整備とか、教育や子育てに力を入れるとか、災害時の危険度はできるだけこうしたら少なくなるとかいうアピールをして、何年後かには「やって良かった」ということにつながるのかなと思う。小学校再編が決まらない限りは、幼稚園とか、こども園とか、保育所のことも決まっていかなければならない流れは分かっているが、「早く決めてほしい」というものもある。
- ・素晴らしい学校づくりをすることで人口が寄ってきたりとか、小松島を活性化することを前提に考えないと、編成をしたけど人口減少に歯止めがかからないということになりかねないのではないかなと思う。
- ・幼稚園、小学校、中学校っていう、きちっとした教育の環境があるところでない「住みたいまち」にはならない、というのが大前提にあるのではないかな。
- ・教育委員会だけで議論できる問題じゃないだろう。トータルの中で議論しないと、中々この問題の出口は見つからないのではないかな。
- ・10年後、20年後、30年後、40年後の小松島のビジョンっていうのを立ててもらい、人が集まってくる、若い世代がどんどん集まってくれるまちづくりを。
- ・子ども達が将来「私たちはここで結婚して子どもを産んで小学校に通わせたい」と、そういうまちづくりからしていかなければ、少子化問題に歯止めがかからないと思う。
- ・学校がたくさんあるのは、それだけ市としてはお金を使うわけで、子ども達のためにたくさんの学校を残したいという気持ちはあるが、その負債は大きくなったときに子ども達にかかってくると思う。
- ・学童の設置をどうするのかとか、いろんな地域から集まってくるのであれば、近いところに学童をたくさん作るとか、地域に点在させるとか。学校が終わった後の放課後が一番気になると言っていた。

(地域文化)

- ・お祭りとか、どんどん子どもが減っていつている。文化も無くなっていくのかなというのが、寂しいというよりも「無くしていいのかな」と思う。
- ・昔はやっぱり地域のシンボリックな建物だったが、最近はどうでもなくなってきてるのかな。避難できる場所と機能が備わっていれば、もういいのかなっていう声も聞く。各小学校区には公民館があるので、公民館があれば何とかコミュニティは保てるのではないかなっていう私の思いもあるし、周りもそんな声をお聞きすることもある。

(跡地利用)

- ・街の中心の学校が無くなって、まちづくり、賑わいづくりは果たして出来るのかなと思っている。
- ・学校が取り壊された跡地どのような感じで利用していくのか。その方針みたいなものが行政側にあるのであれば、成案にする前に地域住民または保護者の方に周知してほしい。
- ・余った学校をどう活かすのかが明確にならないうちに学校を編成するのはちょっと乱暴じゃないか。空いた運動場をどうするのか。空いた教室をどうするのか。
- ・11校を4校に削減するのであれば、先に廃校になる7校の使用目的を考えるべきではないだろうか。
- ・再編後に避難場所というのはそのまま置いたままになるのか、それとも別に作るのか。コミュニティの場になっているので・・・町民運動会はどうなるのか。

○教育内容

【小中一貫・連携】

(学校規模)

- ・1校だけというのに賛成意見もあったが、取り残されているというイメージもあり、難しい。
- ・ずっと6年間学びますとそこで友達関係が全てできてしまう。(中学校で)急に5校集まるとなったから、友達関係とか力関係とかバランスが、とても取るのが難しいと思う。学校再編で2クラス以上あるというのは、子どもにも逃げ場があり、親にも逃げ場がある。
- ・小規模の学校よりは、クラス替えがあつて、たくさんの友達とふれあえる環境がいいのではと思つている。中学校に上がったときに急に大規模になる問題もあるし、社会に出たときいろんな人とふれあうので、小さいときからそういう環境でいることは、個人的にはいいんじゃないかなと思つている。

(学級規模)

- ・児童数も統合するということで、教育面とかも、やはり人数が少ない方が先生が目も行き届くし、教育面以外でも子どもの性格とかも先生は見てくださると思うので、そういう目の視野が狭くなるかもしれないことはちょっと心配。
- ・人数が少なくて目が届くと思うが、私自身はもうちょっと多いところが良かったなあと。やっぱり少ないのでお友達も偏ってしまう。
- ・10人未満の保育を見させてもらつて、ある程度的人数が子ども達の中で互いに刺激を合つてとか、すごく単調なところが出てくるところもあるので、やはりいろんなたくさんの人数の中で刺激を与え合つていくっていうのが、すごくいいなっていうふうに思つた。
- ・少人数の良さもあると思うが「体験」ができない。それで、中学校に行くと、何百人の中で萎縮しちゃう、ということとか起こすのではないかな。

(中1ギャップ)

- ・中学校に行くときびっくりしたのが「こんなにいっぱい人がいるのかな」というのがあつて、中学校のときにはじめてすごい衝撃を受けた。
- ・中学校に上がったときに急激に人数がボンと増えてちょっと戸惑つたところはあるが、そう考えたら「人数が多いところに慣れて」ということもある。
- ・中学校に上がったときに急に大規模になる問題もあるし、社会に出たときって本当にいろんな人とふれあうので、小さいときからそういう環境でいることは、個人的にはいいんじゃないかな。

(その他)

- ・ずっと力関係が変わらない子もいるので、私はある程度、1クラス、2クラス関係なく、いろんなお友達がいる人数がいいと思うのと、目が行き届き過ぎても弊害もある。
- ・小規模・大規模というよりも、大きくても1クラスに手厚い、先生の育成に力を入れてもらいたい。